

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O177100278		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホームなの花すながわ 一号館		
所在地	砂川市 空知太 西1条3丁目3-22		
自己評価作成日	H24年1月13日、17日	評価結果市町村受理日	平成24年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・生活の場として家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごして頂いている。
 ・広い中庭や畑を活用し、GHすずらんと合同で行事を開催したり野菜作りを通して交流があり広がりが増えてきている。また利用者と畑仕事をする事により、その人の昔の話が引き出せる等、一人ひとりが表情豊かに生活している。
 ・日頃のコミュニケーションや仕草等、良く観察しその人が持っている力を最大限に発揮出来るよう支援を行なっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177100278&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年2月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、砂川市初のグループホームとして住宅地の一角に開設、8年目を迎える。専門職のケアのもと、利用者が馴染みの地域でその人らしい暮らしを安全、安楽に過せるよう、職員の質向上と育成を重視し力を注いでいる。開設当初からの職員が半数近く在職し、培ってきた介護経験を裏付けしつつ新たな技術習得に取り組み、内部、外部研修が充実している。職員間の意思疎通、チームワークの良さが当事業所の特徴の一つでもあり、本人本位の視点に立った関わりの中で利用者は家事や趣味に力を発揮し、自分のペースを保ちながら過している。また、広い中庭を活用し、職員と利用者が一緒に畑づくりや収穫を楽しみ、多種類の野菜が食の彩を豊かなものにしていく。地域住民との交流や協働体制づくりも様々な機会を捉えて取り組んでいる。行政や協力医療機関との連携も良く、利用者の穏やかな生活に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域を踏まえた理念を掲げ、廊下・食堂に掲示。また名札の裏にも記載しケアの原点ととらえ実践に繋げている。	理念を事業所の要所に掲示し、職員が常に携帯することで意識化を図っている。日常業務の中で事業所の目指すサービスの基本として繰り返し共有する機会を設け、ケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。廃品回収等に協力している。ホームの行事、避難訓練に町内の方々に参加。またホーム周りを散歩した時に挨拶を交わしベンチを用意してくれたりと日常的な交流が増えてきている。	町内会が、事業所の周辺道路に安全確認の看板を設置するなど事業所への理解があり、利用者と共に地域活動や行事にも参加している。散歩時のふれあいやボランティアの来訪、事業所主催の七夕祭りには多数の住民の参加もあり、利用者が地域の人達と関わりながら生活できるような支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域社会資源マップに登録。認知症の人の理解や支援の方法を理解して頂く為にホームの行事等に参加して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を実施。ホームの実情を報告し意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には家族代表や地域代表、地域包括支援センター職員などが参加し、資料を基に事業所の現状や利用者状況、活動などを詳しく報告している。会議では双方向の討議が交され、防災に関して地域との協力を進めている。	今年度は会議開催が少ない状況なので、概ね2ヶ月毎の定期開催の取り組みを期待する。また、全家族に議事録を配布し情報を共有すると共に、欠席の家族からの意見も聴取し、多様な意見を得て協議を深め事業所の質向上に活かす取り組みを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市役所介護保険課へホームの実情を報告している。また、包括支援センターや市役所保護課とも空き状況等も含めた実情を報告し、協力関係を築いている。	市の担当部署とは、定期報告や実務上の情報交換で連絡を取り合い、担当職員の来訪や行事参加の機会もある。また、地域包括支援センターの協力により勉強会を実施し、日頃からサービスの向上に連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての資料をユニットに置きいつでも閲覧出来るようになっている。ベッド柵は起立に必要な人以外は使用していない。防犯の為、夜間は玄関を施錠。	身体拘束に関する内容の理解は、外部研修や伝達研修で学ぶ機会を設けている。特にケアの実際場面で不適切と思われる言葉の抑制や、利用者の介助や身守りの仕方などを確認し合い、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に随時参加。参加した職員から職員会議で報告があり学ぶ機会を作っている。日頃から虐待を意識し、支援が難しい利用者に対してはその都度検討をし早めの対応を行う事で防止に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学んできた職員より報告があり学ぶ機会を作っている。現在利用している方には必要性は無いが今後、研修会に積極的に参加し職員全員が同じ理解になるようにしていきたい。(内部研修会も含め)			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学に来てホームの雰囲気を感じて頂き、面談を重ね利用者や家族の思い等を伺い対応している。解約時も十分な説明を行い理解・納得を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置し揭示。誰もが利用出来るようになっている。また、利用者からは日々のケアの中から、家族からは面会時等に意見を聞き運営に反映させている。	利用者、家族が意見や要望などを言いやすい雰囲気づくりに努めている。遠方の家族には毎月の報告に手紙を添えて郵送し、電話の際にも意向を聞くようにしている。意見や要望を受け留めて職員と共有し、課題解決に向けて具体的に対処している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社に意見・苦情窓口があり休憩室に掲示している。月一回の職員会議後等に時間を設け意見交換を行い反映させている。	管理者は、日頃から対話を大切に会議や業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。勤務の希望や研修関係、ケアの実践についても職員に問いかけて検討し、働く意欲の向上やサービスの質の確保に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事への取り組みや意欲等を管理者が施設長へ報告し把握している。また、勤務希望、公休日数等出来る限り要望に応え働きやすい環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に多くの職員が参加出来るよう勤務調整等を行い、職員会議で報告してもらい全員が周知出来るよう工夫している。内部研修会には多くの職員が参加。また日常的に職員同士学びを深められるよう意見交換等も行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と職員の他施設実習を行いネットワーク作りや交流を行い、ホームのサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。また、他施設への行事等にも参加している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係に繋がるようホームの見学や面談を重ね、本人の気持ちをくみ取り安心を確保出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係に繋がるようホームの見学や面談を重ね、家族の気持ちをくみ取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の聞き取り調査や、面談内容等を基に初期対応がスムーズに行えるよう支援している。また場合によっては市町村や他施設の紹介等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・掃除等、日常生活のあらゆる場面で利用者とは職員と一緒にいる。また利用者の経験や知恵を借り季節の行事の迎え方・旬の野菜の調理方法等を教えてもらっている。昔ながらの遊び(あやとり・花札等)も教わり喜怒哀楽を共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常の様子を伝え情報の共有をしている。誕生日に招いたり、面会の少ない家族には近況報告の手紙を書き郵送。家族の宿泊にも対応。また家族も一緒に排泄介助や口腔ケア、入浴の促しを行ったりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないよう電話や手紙等の促しを行っている。今まで通ってきた理美容室や教会にも行けるよう支援を行っている。面会に来た時は居室にてゆっくりと過ごして頂いている。年賀状も継続出来るよう支援を行っている。	本人の生活歴を尊重して、電話や手紙の支援をはじめ、行きつけの美容室などを利用したり自宅の様子を見に出かけたり、家族と協働して本人が大切にしてきた関係を断ち切らないように努めている。外出が困難になってきた利用者には、家族や親類に面会を促して事業所での宿泊も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれ役割を持ち役に立っている場面を見て頂き各々が尊重出来る人である事を知って頂いている。孤立しそうな利用者には職員が間に入り支援している。利用者同士の関係を把握し行事の時の席を考慮。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どがホームから入院となり退居となっているが、必要な情報提供や支援は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話や表情から思いを察し、その様子を記録し職員全員で共有している。困難な場合は家族等から情報収集し本人本位に対応方法を考慮し支援している。	アセスメントはセンター方式を活用し、利用者の思いに関心を寄せて情報を収集している。職員の気づきを積み重ね家族の情報も重視して、本人の視点で検討を行っている。各種記録様式の改良を進めながら、利用者個々の思いに沿った支援に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等の情報を基に個人ファイルを作成しいつでも閲覧出来る場所に置いている。また、新しい情報もその都度記入し全体で把握出来るようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子(言動・排泄・水分等)を個別に記録し、申し送りと共に現状の把握をしている。また有する力について毎月専用の用紙に記入し職員全員で把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は三カ月毎にモニタリング、新規作成時は各自のE表と本人・家族の要望などを基に会議で意見交換し作成。また、利用者に変化があった時は臨時会議を行い計画を再検討し早期変更を行っている。	毎月アセスメントをすることで利用者の状況を把握し、3ヶ月毎に計画に対してのモニタリング、評価を実施し、現状に即した計画を作成している。利用者の状態は常に職員全員の理解として変化に応じて随時計画の変更が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に24時間シート・排泄表を毎日記録。受診・往診ノート、個別の連絡ノートの設置。また、申し送りも合わせ情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師の定期的な往診(歯科も含む)により受診の負担を軽減。受診は家族対応が原則だがホームの看護師や管理者が適宜同行し送迎も行っている。遠方の家族には宿泊の受け入れ、食事提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事にボランティアの方を招き楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じた病院の受診を行いホームの看護師が主にかかりつけ医と協力関係を築いている。月二回、地域の医師による往診もあり、緊急時・現病歴を含め支援している。	利用者、家族の希望のかかりつけ医の受診は、家族の付き添いを原則としているが、看護師や管理者が同行を支援している。協力医による往診があり、看護師が中心となって情報を共有し緊急時の指示も迅速に得られる態勢である。受診を記録し、結果も家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師一名勤務。日中等24時間連絡が取れるようになっており、早期対応が可能。また、受診・往診ノートを利用し確認出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員それぞれがお見舞いに行き状態等を観察、看護師・管理者が病院関係者と情報交換をこまめに行い早期退院が出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想された段階でかかりつけ医や家族等と連携を取り本人や家族の思いに沿えるよう支援に取り組んでいる。それと共に事業所で出来る事を見極めて方針を共有し支援に取り組んでいる。	利用者が重度になってきた場合には、本人、家族の意向を確認して事業所の対応可能な支援も説明し、医療関係者との連携を取りながら、情報や方針の共有に取り組んでいる。	重度化、終末期のあり方に関しては、利用者、家族の不安のひとつでもある。今後の高齢化を見据えて、重度化や終末期についての事業所の対応の指針を書面で明確にし、できるだけ早期から方針を共有すると同時に、職員との共有も徹底し、介護力向上の取り組みも期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応マニュアルを設置している。全ての職員が普通救命講習を終了しており、急変や事故に対応出来るようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した訓練は行っていないが年二回、避難訓練を行っている。防災マニュアルを設置。また、運営推進会議を通し地域の方にも協力を依頼している。	年2回、日中の避難訓練を実施し、地域住民の参加も得ている。防災マニュアルを整備し、火災以外の水害についても対応策を話し合っている。緊急時の避難先は、事業所便りの紙面で家族に周知している。	職員の手薄になる夜間帯を想定した訓練の実施や地域協力の具体的な体制づくり、水や食料、防寒用品など災害時に必要とする物品の検討などの災害に備えた対策の強化に取り組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷付けないよう、相手の立場に立ち、その人に合った声掛けを行い時にはジェスチャー等交えて対応している。	職員は、利用者一人ひとりを尊重し、分かりやすい問いかけで自己決定を促したり、誇りを損ねない言葉かけを行っている。排泄の誘導や介助、入浴時の羞恥心などにも十分配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多く取り、希望を聞き取り言葉だけでなくジェスチャー等も交えてその人に合った説明をし自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで過ごしている。入浴は職員の勤務の都合上、時間は決まっているがその人の体調や気分を考慮し臨機応変に対応。外出希望も含め希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と行きつけの理美容室へ行かれたり訪問美容室を利用している。厚着、薄着に気を配りながら本人の意思(自己決定)を尊重しその人らしい身だしなみになるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考え調理・片付け等も一緒にやっている。一人ひとりの嗜好を把握し献立を一部変更したり食事が進まない利用者に対し調理方法や食材の説明を行い食欲が増えるよう支援している。	献立は利用者の希望を取り入れ、系列施設の栄養士に栄養面で相談し確認している。買い物や準備など食事の作業は利用者と一緒にやっている。嗜好や嚥下状態に合わせて形態、調理法などの変更もきめ細かく対応し、行事食にも工夫を凝らしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は観察や個別の記録より把握。その人の状態に合わせて食材の形態を変えている。水分摂取時は嗜好を聞き提供。ぬるま湯で服薬等、その人に合わせて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助等その人に合った方法で支援している。義歯消毒の施行。舌ブラシ等も使用し、清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録を行ないパターンを把握し誘導や声掛けで失禁やパットの使用頻度が減少するよう支援。夜間は睡眠状態をみてパット交換・トイレ誘導・PTイレ使用と自立へ向けた支援を行っている。入居時パット使用の利用者も誘導により汚染が減少。	排泄表により本人のパターンを把握し、できる限りトイレでの排泄を支援している。利用者一人ひとりの排泄状況に適したケアに取り組み、衛生用品の使用の軽減や排泄の失敗の減少につながっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝プルーンと牛乳を提供。食事に雑穀米や寒天、乳製品等を取り入れている。野菜は多く摂取出来るよう調理法を工夫。体操等、体を動かす機会を多く作っている。便秘時は看護師と連携し下剤を調整している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務の都合上時間は決まっておりますが状態を見て予定を組むが早めに声掛けし本人の希望に沿っている。声掛けを工夫したり入浴剤の使用、お湯の温度を調節、椅子の使用等その人に合った方法で支援している。	毎日午後の時間で入浴を準備し、最低週2回、本人の体調や気分に合わせて入浴を支援している。ゆったりとした入浴を楽しめるよう入浴剤や介助法を工夫し、希望により同性介助も対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の気分や体調によりソファーや居室で好きなように休息。夜間は一人ひとり時間を見て居室へ戻りテレビを見たり、ゆっくりしてから入眠している。寝付けない時はホットミルクを提供する等工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援方法を統一し二重三重のチェックと声出し確認で事故防止に努めている。薬の情報は個人ファイルにて保管いつでも閲覧可能。薬の変更が合った時は看護師より申し送りがあり記録に残している為確認出来るようになっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	持っている力を発揮出来るよう食事作り、クラフト作り、掃除等様々な場面で役割を持って頂いている。二号館やすずらんへ遊びに行ったり、ゲームをしたり気分転換も図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に外へ出られるようになっている。職員と買い物やドライブに出掛けている。本人や家族の希望に沿い、いつでも外出・外泊出来るよう支援している。	天候の良い時期は、花見や果物狩りなど外出行事を企画している。日常的には散歩やスーパーへの買い物、ドライブなどに出かけている。中庭には自由に出入りして草取りや野菜づくりを行い、歩行が困難な利用者も日光浴を楽しみ、それぞれの思いに沿って戸外で気持ちよく過せるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を手持ちしている事で安心する事を理解しており不安の早期解消に努めている。個々の力に応じてお金を所持しており買い物や行事の時に自ら使用できるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が使用できプライバシーが確保出来るよう個室を利用しゆっくり話せるよう支援している。手紙や葉書の投函を職員が代行している。年賀状の支援も行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節を感じる事が出来るよう手作りの作品や写真を掲示。テレビの音量を調節。カーテンで直射日光を遮る。またトイレを認知出来るよう張り紙で表示し夜間は電気を消さず扉を開けトイレ内が見えるようにしている。	共用空間は、対面キッチンの食堂、ソファースペースや和室を配置し、利用者は家事を手伝い、ゆったりとソファで談笑するなど、皆が集い、くつろぐ場となっている。四季折々の装飾や職員と利用者手製の貼り絵、行事写真を飾り、ほのぼのとした家庭的な雰囲気を感じられる。音や陽光の調整、温湿度の管理も、利用者の過しやすさに配慮して対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	沢山の椅子があり必要に応じて椅子を動かし共用空間の中でも一人になれる場所を確保したり、一つのテーブルに集まってお茶を飲んだり談話したりと居場所の工夫をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべく馴染みの物を持ってきて頂いている。また家族写真や趣味の物、花等一人ひとり好きな物を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、衣服や生活用品が整理できるクローゼットや窓下収納を備えている。馴染みの家具や仏壇、植物や写真など好みの物品を持ち込み、毎日の仏壇のお供えや植物の手入れができるよう、生活スタイルや個性に合わせ居心地良い居室環境を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札・顔写真を掲示。トイレまでの案内の張り紙を掲示。洗剤類には目隠しをする等して安全に配慮し洗濯機を使用出来るよう支援している。			